

小規模企業景気動向調査 [2024年1月期調査]

～高止まりするコストに続き、震災や暖冬の影響で改善傾向に歯止めがかかる小規模企業景況～

<産業全体>

1月期の産業全体の景況は、採算DIがわずかに改善し、資金繰りDIが小幅に改善した一方で、業況DIが小幅に悪化し、売上額DIが大幅に悪化。全産業で売上額DIが悪化した。前年同月比で見ると、全DIが改善し、採算・資金繰り・業況DIにおいては2桁ptの改善をしているものの、コスト高騰に加え、一部では震災や暖冬での積雪量減少による影響も見られ、改善傾向に歯止めがかかった。

	DI	12月	1月	前月比
売上額		15.3	8.1	▲72
採算	▲180	▲168	12	
資金繰り	▲169	▲14.1	28	
業況	▲92	▲11.3	▲21	

<製造業(食料品、繊維、機械・金属)> 業種ごとにバラつきはあるが、引き続き好調を維持する製造業

製造業は、資金繰りDIが小幅に改善、業況DIが小幅に悪化し、売上額DIが大幅に悪化した。食料品及び繊維関連は、売上額DIが大幅に悪化した一方、前年同月比では、売上額DIが2桁pt超の大幅改善と好調であった。人手不足の影響からの機会ロスや、人件費高騰への対応に苦慮しているとのコメントが目立つ。機械・金属関連は、全DIが悪化に転じ、売上額DIが大幅に悪化。メーカーの生産ラインが、調整により停止しているとのコメントがあった。

	DI	12月	1月	前月比
売上額		17.6	10.5	▲7.1
採算	▲174	▲17.8	▲0.4	
資金繰り	▲170	▲13.9	3.1	
業況	▲7.8	▲10.4	▲2.6	

<建設業> 民間・公共事業を中心に好調も、人手不足が深刻化する建設業

建設業は、売上額DIが小幅に悪化、採算・資金繰り・業況DIは改善を示した。売上額DIは、前年同月と比較すると2桁pt超の大幅改善となった。民間・公共工事ともに受注が増加しており、他業種に比べて好調を維持している。一方で、以前にも増して、人手不足の問題が深刻化しており、思うように売上アップに繋がっていない。能登地震の復興需要が本格化すれば、さらに人材確保難が深刻化するとのコメントがある。

	DI	12月	1月	前月比
売上額		15.6	12.4	▲3.2
採算	▲21.9	▲19.7	2.2	
資金繰り	▲22.7	▲15.7	7.0	
業況	▲12.2	▲12.0	0.2	

<小売業(衣料品、食料品、耐久消費財)> 前年比2桁改善も、物価高による消費低迷が課題の小売業

小売業は、採算DIがわずかに改善した一方で、業況DIが小幅に悪化、売上額DIが大幅に悪化した。前年同月比では売上額は改善している一方で、他業種と比較すると、全DIで弱さがみられる。衣料品及び食料品関連は、売上額・業況DIが大幅に悪化した。高単価商品の買い控えなど、物価高による消費低迷が、大きく影を落としている。耐久消費財関連も売上額DIが大幅に悪化。7期連続でプラスを維持していたが、マイナスに転じた。消費低迷に加え、暖冬による暖房器具等の需要低下がみられる。

	DI	12月	1月	前月比
売上額		11.2	2.0	▲9.2
採算	▲22.1	▲21.0	1.1	
資金繰り	▲18.4	▲18.6	▲0.2	
業況	▲13.7	▲17.3	▲3.6	

<サービス業(旅館、クリーニング、理・美容)> 震災の影響も見られ、業況回復への道のりは遠いサービス業

サービス業は、採算・資金繰りDIがわずかに改善した一方で、業況DIが小幅に悪化し、売上額DIは大幅に悪化した。旅館関連は、資金繰りDIがわずかに改善した一方で、売上額・業況DIが大幅に悪化。インバウンド需要は好調だが、能登半島地震により、予約キャンセルが相次いでいる。クリーニング関連は、採算DIが大幅に改善した一方で、売上額DIが大幅に悪化。旅館業での予約キャンセルがリネンの減少に繋がり、売上が減少した、とのコメントがみられた。理・美容関連は、採算・資金繰り・業況DIがわずかに改善した一方で、売上額DIが小幅に悪化。業況は横ばいで推移している。

	DI	12月	1月	前月比
売上額		16.9	7.5	▲9.4
採算	▲10.6	▲9.0	1.6	
資金繰り	▲9.6	▲8.0	1.6	
業況	▲3.1	▲5.7	▲2.6	

調査概要

・調査対象: 全国302商工会の経営指導員(有効回答数: 226/回答率 74.8%)

・調査時点: 2024年1月末

・調査方法: 対象商工会経営指導員による調査票への選択記入式

※ DI(景気動向指数)は各調査項目について、増加(好転)企業割合から減少(悪化)企業割合を差し引いた値を示す。